

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-900	16-305	慶應義塾大学
<b>題名(原題/訳)</b>		
Intranasal Oxytocin Selectively Modulates Social Perception, Craving, and Approach Behavior in Subjects With Alcohol Use Disorder. 鼻腔内オキシトシンはアルコール摂取障害の被験者で社会的知覚、渴望とアプローチ行動を選択的に調整する		
<b>執筆者</b>		
Mitchell JM1, Arcuni PA, Weinstein D, Woolley JD.		
<b>掲載誌</b>		
J Addict Med. 2016 May-Jun;10(3):182-9.		
<b>キーワード</b>		PMID:
オキシトシン、アルコール乱用、社会的能力		27159342
<b>要旨</b>		
<p><b>目的</b></p> <p>社会的能力を改善し、断酒を促進する薬物療法は、特にアルコール使用障害の治療のために有効である場合がある。最近の臨床および前臨床のエビデンスは、オキシトシンが向社会的および抗中毒効果があることを示唆している。我々は、オキシトシンの治療的な可能性を評価し、忍容性を評価するために、アルコール乱用 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 第4版基準に従って) で、被験者でオキシトシンの試験的な研究室ベースの、前臨床医学試験を行った。</p> <p><b>方法</b></p> <p>社会的知覚的な能力、キューによって誘発された熱望、アルコールと魅力的イメージに対するアプローチ・バイアスは、二重盲検交差試験でアルコール乱用で32人の非治療を求めている個人に、鼻腔内オキシトシンと偽薬を投与後に定量化された。愛着スタイルがオキシトシンの効果を緩和することができるので、愛着スタイルがわれわれの行動尺度に対するオキシトシンの効果を緩和したかどうかについても調査した。</p> <p><b>結果</b></p> <p>オキシトシンは社会的知覚作業に関してより簡単な項目の認識を有意に改善したが、キューによって誘発された熱望には有意な群-レベル影響を及ぼさなかった。しかしながら、切望に対するオキシトシン効果は、付着不安によって緩和され、オキシトシンはより心配に付着する個人の熱望を減弱し、より心配に付着していない個人において熱望は増加した。被験者はプラセボ日にアプローチ・バイアスをアルコールイメージに表示しなかった。そして、この手段の意味がある分析を妨げた。被験者はプラセボ日には、アプローチ・バイアスを魅力的イメージに表示した。そして、それはオキシトシン投与によって有意に低下した。有害反応は観察されなかった。</p> <p><b>結論:</b></p> <p>鼻腔内オキシトシンには社会的知覚を改善し、キューによって誘発されたアルコール熱望を減らし、アルコール乱用の被験者における魅力的アプローチ・バイアスを減らす可能性があり、この集団で問題なく許容的でありえる。オキシトシンの効果は複雑であり、更なる調査を必要とする。</p>		